

平成23年度

取扱注意

授業改善推進プラン【小学校】

- ①平成23年度北区立小学校学力向上を図るための全体計画(様式1)
- ②平成23年度第2学年・第3学年・第4学年・第5学年・第6学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析(様式2)
- ③現第6学年平成22年度第5学年「児童・生徒の学力向上を図るための調査」読み解く力に関する調査(東京都教育委員会)結果の分析[全校で実施](様式3)
- ④指導方法の課題分析と具体的な授業改善案 4教科

* 現第5学年平成22年度第4学年「児童・生徒の学力向上を図るための調査」基礎的・基本的な事項に関する調査(東京都教育委員会)結果の分析
[実施校のみ](様式4)

東京都北区立王子小学校

平成23年度「北区基礎・基本の定着度調査」を受けての各教科の分析	
国語	意見文を書く取り組みを継続して行い、書くことに関しては、区平均を大きく上回った。特に今年度は、校内研究で話すこと、聞くことの研究を行い、日々の授業の中で、話すこと・聞くことの方を意識して指導していく。
社会	授業で学んだことを日々の生活の中で生かすことができる力を育成する。地図、年表など資料を効果的に活用して自ら進んで調べながら、資料から必要な情報を読み取ったり、複数の資料を関連付けたりできるように指導する。
算数	問題に対して、すぐに答えを求めるのではなく、既習事項を活用しながら問題を解決するまでじっくりと考えさせる。図をかいたり、必要な情報を整理したり、表を書いたりしながら、問題を解決できるように指導していく。
理科	基礎的な理解は、区の平均を大きく上回り、十分達成されているといえる。科学的思考力や自然事象の理解では、平均80%以上を正答している。今後も問題解決型の授業スタイルを続け、科学的な見方をさらに育てていく。

本校の教育目標
かんがえる子
がんばる子
やさしい子
けんこうな子

本校が児童に育成したい力
本校は、北区教育委員会の教育目標にある「基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着や思考力、判断力、表現力、問題解決能力等の育成などにより確かな学力を定着するとともに、学ぶ喜びを体得し、知識・技能を暮らしに活かす子どもを育成する教育を推進する。」を受け、以下のように考えた。 ・基礎的・基本的な知識・技能、思考力・判断力・表現力を習得し、それを活用することにより、生活における問題を解決していく能力を高めていける児童の育成に努める。 ・小中一貫教育を通して、生涯にわたり学習することの意味を感じ、学習意欲の高い児童の育成に努める。
校内における学力向上推進体制
学力向上推進委員会が中心となり、研究推進委員・各教科主任等に働きかけ、実態に応じた指導が進んでいるか評価する。

学力向上にかかわる経営方針
各教科・領域においてさまざまな体験的活動や課題解決的な活動を取り入れ、TT、少人数指導、合同授業、教育ボランティアの参画など、多様な教育活動を積極的に行う。基礎的内容を身に付けさせて学力の向上を図り、生涯学習の基礎を培う。

授業改善に向けた視点				
指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
教科の特性に応じて各教科ともスモールステップで理解力を確認しながら学習を進めていく。また、少人数指導など指導形態を工夫するなどして子に応じた指導の充実を図る。	本校の児童の学力の実態を全教職員で共通理解する。自分が担当する学年や教科でなくても、児童の実態に応じた指導ができるようにする。	授業研究を進めるなかで、教師自身の授業力を向上させる工夫を図る。また、学校ファミリーなどを活用し、休業中などには、時間を充分にとった研修を組む。授業改善プランについて年度途中でも修正を行いながら学力向上を目指す。	児童が自己評価し、さらに教師が評価することにより確かな自己評価能力が養われるようにする。また、教師間で情報交換をし、よりよい評価を工夫する。	学校便り・学年便りで保護者の意識を啓発し、成果や課題を明白にする。また、学校公開日や授業参観・保護者会を通じ児童の実態を理解してもらうことにより、学力向上を図るために必要な協力を要請し協力を求める。

平成23年度 第2学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析

北区立王子小学校

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
話を聞き取ることは区の平均並み、助詞の使い方や文	読む能力以外は区の平均・期待正答率を上回っている。特 に関心態度では1.5ポイント、書く能力では2.2ポイント、区の平均を上回っているが、読む能力は、1.5ポイント下	家庭と連携して、日記指導に取り組んだ結果、文章を書くことに抵抗が少なくなった児童が多い。助詞の使い方も繰り返し指導し、正しく使えるようになった。ただし、文章を正確に読むことは苦手な児童も多いので、今後は文章に即した読み取りができるように指導したい。
算 数		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
たしざん・長さくらべ・とけいでは区の平均を下回ったが、120までの数、数の大きさくらべ、3つの数の計算は、区の平均並み、ひき算、たし算・ひき算の問題、かたちでは、区の平均を1ポイント以上上回っている。	知識理解については区の平均並み、数学的な考え方の観点では1.7ポイント、他の観点でも若干区の平均を上回っているが、担任とパワーアップ3人の4人体制で丁寧に指導してきた結果が出た。	児童にとって理解が難しいと思われるひき算と文章題に力を入れて指導した結果、ともに区の平均を上回った。ひきざん正確にできるようになった反面、たしざんを忘れてしまった児童がいる。長さくらべでは、間接比較において押さえが足りなかった。時刻の読みも復習が必要である。

平成23年度 第3学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
7つの内容の全てが、区の平均を下回っていて、特に漢字を書くこと、説明文の内容を読み取ること、作文の項目の落ち込みが、著しい。	話す・聞く能力は、区の全体正答率に一番近い結果が得られたが、書く能力が区の期待値に対して、約10ポイントも低い結果となっている。	内容別、観点別の両面から、漢字の書くこと、作文を書くことが、苦手な児童が多いことが伺える。今後は、年間を通じて、自主的に漢字練習に取り組むシートを作成し、児童に取り組ませたい。様々な機会に手紙や作文を書く活動を設け、書く習慣を身に付けさせたい。
算 数		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
基礎・活用ともに区の平均を下回っている。特に、「いろいろな形」の内容では7ポイントも低く、図形が弱いことがわかった。また、たし算、ひき算、かけ算など計算の力も達成度が低い。形遊びなどの具体物の操作や、計算の反復練習などが必要と思われる。	特に大きな特徴はなく、どの観点でも区平均を下回っている。しかしこの学年の昨年度に比べると、数学的な考え方の達成度が伸びている。学年でそろえて問題解決学習を取り入れた成果が表れたものと思われる。	全体的に基礎力が不足しているため、知識を活用したり数学的に考えたり、考えを表現したりする力が十分に育っていない。基礎力を身につけるための具体物の操作や計算力向上のための反復練習、問題解決学習における思考力、表現力の向上が必要と思われる。

平成23年度 第4学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
すべての内容において、区の平均とほとんど同じか、わずかに上回っていた。しかし、漢字を読んだり、書いたりする内容では、期待正答率を下回っていたし、言葉の学習でも、期待正答率を下回っていた。	どの観点についても区平均とほぼ同じ程度であった。しかし、「話す聞く能力」は、平均を下回る結果で、児童の実態が出ているように感じられた。	どこをみても、区の平均正答率と変わらない結果だったが、けっして高い結果ではない。これに満足することなく、さらに力をつけさせたい。
社 会		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
「いろいろな店」「店ではたらく人」「消ぼうしょの仕事」以外は期待値、区の平均を上回っている。傾向としては、身近な地域や市については興味は高いが、それらの生産や販売についての理解が低い。また若干であるが災害や事故についての理解も低い傾向がある。	どの観点においても期待値、区平均を若干上回っている。基礎的な理解はしているが、それを踏まえて考察したり他の事象と比べたり自分の生活との関連を考えながら学習問題を設定し、自ら調べたりまとめたりする力が不足している。主体的に考える力が不足している。	全体的に大きな特徴はないが、クラス差に配慮する必要がある。基礎的な理解は出来ているが実際の生活に結びついていないところがある。社会的事象を自分の生活との関連として捉えさせる活動として調べ学習や自分の考えをもち、友達の意見を聞く交流などを推進していきたい。
算 数		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
基礎・活用ともに北区平均を上回っている。特に「円と球三角形」では、区の平均を8ポイント上回っていた。基礎的な内容はよく理解しているが、活用に関しては、表現力の不足が感じられた。また、「かさ・重さ・長さ」などの測定分野が弱い傾向が見られる。	すべての観点で、区平均を上回っている。昨年度のこの学年は、「数学的な考え方」において、区平均を下回っていたが、今年は3ポイント以上上回っている。「算数への意欲・関心・態度」が若干低めである。意欲や関心を高める授業の工夫が必要と思われる。	数量関係の表現・処理の達成度が若干低くなっている。分数・小数の知識や理解、「かさ・重さ・長さ」など量や測定に関する知識・理解、表現・処理能力が不十分と思われるので、実際に測定する機会を多く設け、またそれらを活用する授業を工夫していく必要がある。
理 科		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
「日なたと日かげ」「磁石のはたらき」以外は、期待値、区の平均を上回っている。傾向としては、自然観察単元は強いが自然事象に関心が薄い傾向がある。全体的にみると大きな特徴はなく、基礎力が身に付いていると言える。	どの観点においても期待値、区平均を若干上回っている。基礎的な知識理解はできるが、それを基に考えたり予想したりする力は、不足している。クラスや男女の差がみられる個人差もある。これらに配慮した授業が必要である。また言語での表現力が不足している。	全体的に大きな特徴はない。クラス差や個人差に配慮する必要がある。基礎的な知識理解は取れているので、生活体験を増やし、生活の場で知識が生かされるようにしていく。引き続き、問題解決型の授業を推進していく。

平成23年度 第5学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
どの観点についても区平均を上回った。特に「漢字を書く」「説明文の内容を読み取る」では区の平均より5ポイントから7ポイント上回っていた。「パンフレットを読み取り話し合う」では、区の平均も校内平均も低いので、話し合い活動の充実が必要である。	どの観点についても区平均を上回った。特に「読む能力」「書く能力」は3ポイント「言語について」は5ポイント上回った。基礎については4ポイント、活用については3ポイント上回っており、概ね満足できる結果となった。「話し合う」については56%と低い結果となった。	書く能力・話す聞く能力については、区の平均正答率も低く、校内の平均も低い。特に「話し合う」内容については、56ポイントと他の内容と比べると落ち込みが大きい。また、言語については、漢字の読み書きより、言語の学習が正答率70%と低く、課題が見られた。
社 会		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
「昔のくらしの様子」「地図帳の使い方」「地形図の見方」は、期待値をわずかに下回っている。それ以外の内容については、10ポイント以上上回っており、特に「健康なくらしをささげ領域において、正答率は高くなっている。全体的に見ると、基礎的な内容の理解は十分であると考えられる。	どの観点でも期待値を上回っている。3つの観点においては7~8ポイント上回っているが、観察・資料活用 of 技能・表現についてはわずか3ポイント上回る結果であった。全体的に見ると、観察・資料活用能力が低い傾向がある。	全体的に、区平均を上回っているが、活用の内容は期待値を下回っている。「観察・資料活用 of 技能・表現」をより強化することで、地形図の見方などの内容も期待値に迫ることができる。そこで、資料を活用した調べ学習を継続して取り入れ、自分で考え表現する力を育てていく必要がある。
算 数		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
「計算のきまり」「面積」「角の大きさ」では、区平均を5ポイント以上上回っている。一方、「わり算」「小数」「折れ線グラフと表」では平均をわずかに下回っており、内容によって大きな差が出ている。教科全体としては区平均を2ポイント上回っており、基礎的な理解は十分あるといえる。	どの観点でも区平均を上回っているが、特に「関心・意欲・態度」と「数学的な考え方」が4ポイント以上区平均を上回っている。一方、「知識・理解」「表現・処理」については、区平均を上回っているがわずかなので、観点によって差があることがわかった。	意欲・関心が高く、数学的に考える訓練を積み重ねてきた成果が今回の結果につながっていると思われる。一方、理解にむらがあり、わり算や小数の計算力がついていないという面も見られ、ドリル式の反復練習が不足しているといえる。
理 科		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
平均正答率は、80点を超えている。期待値を10ポイント以上上回る事が出来た。活用事項の平均は6ポイント上回っている。内容別にみても、すべての内容において期待値を大きく上り、区平均もすべて上回っている。基礎的な理解は十分達成されていると言える。	どの観点も期待値を5点から10ポイント上回っている。前年平均点を5ポイント上回った。区の平均でも、5ポイント以上上むらのない基礎力が育っていると言える。科学的思考力も平均84%となり力をつけてきた。自ら考えたり表現したりする力は不足している。	全体的にむらがなく、大きな特徴は見られない。生活体験から考えたり、実験結果から分析したりする思考力は不足している。身に付けた基礎力を生活の場で役立てる力を養うことが課題である。問題解決型の学習を引き続き推進していく。その中で表現力を培っていく。

平成23年度 第6学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
基礎力、活用力とも区平均を3ポイント以上上回っている。「話し合いの内容を聞き取る」「言葉の学習」は区平均より3ポイントほど上回っていた。「説明文の内容を読み取る」は平均より2ポイント下回り、期待正答率を5ポイント以上下回	読む能力をのぞいて、どの観点においても、区平均と期待正答率どちらも上回っている。書く能力については、区平均を4ポイント以上上回っている。読む能力のみ、区平均をポイントほど下回っている。	書くことに関しては、日頃の説明文の宿題が大きな効果を出したと考えられる。全体的に区平均を上回っているが、「説明文を読み取る」ことに関して課題が見られるので、教科書以外の文章を自分で読み解いていく力を育てていく必要があると考える。
社 会		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
日本の水産業、工業地域、貿易は区平均を上回っている。特に、工業地域、貿易は2.5ポイント以上上回っている。ただ、日本の農業、食料生産、自動車をつくる工業私たちの生活と情報、国土と気候は下回っている。特に、国土と気候は5.6ポイントと大きく下回っている。	すべての観点において、区平均を下回っている。特に関心・意欲・態度は、8.1ポイントと大きく下回っている。また、思考・判断と表現・技能はともに3.9ポイント下回っている。知識・理解は2.4ポイント下回っている。	社会的な事象に関心をもてるように指導していくことが必要である。授業で学んだことを、日常生活と結びつけて考えたり、書籍や新聞、テレビ、インターネットなどを用いて、自ら進んで調べたりして、社会生活に生かしていけるようにする。
算 数		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
基礎・活用とも、区平均とほぼ同程度の達成率であった。領域別では、内容別では、分数、単位量あたりの大きさなどは2ポイント以上区平均を上回っているが、合同と立体、体積などは区平均を3ポイント以上下回っている。領域別では、数と計算以外は、区平均を下回っている。	期待正答率と比べると、すべての観点において、上回っているが、関心・意欲、数学的な考え方、表現処理では、区平均をほぼ1ポイント上回っている。しかし、知識・理解では区平均を、0.8ポイント下回っている。	全体的に区平均より上回っており、力が身につけているといえる。問題別の正答率を見ていくと知識理解が落ちこんでいる。反復練習等で基礎的な知識を確実に定着させその上で、考えたり判断したりする力をつけていけるように既習事項を確認しながら問題解決の授業を行う。
理 科		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
基礎力、活用力とも期待値を5ポイント以上上回り、区の平均を回っている。内容別にみても、物の溶け方以外はすべて上回っている。基礎的な理解はできていると言える。どの内容もむらなく大きな特徴はない。	どの観点においても期待値を5ポイントから10ポイント、区平均を上回っている。むらのない基礎力が育っていると言える。科学的思考力も80%近くまで来ており、力をつけてきた。自ら考えたり表現したりする力は不足している。	全体的にむらがなく、大きな特徴は見られない。実験結果を予想したり、結果を分析する力は不足している。生活体験から考え、生活の場で役立てる力を養うことが、課題である。問題解決型の学習を引き続き推進していく。その中で、表現力をさらに育てていく。

現 第6学年 平成22年度第5学年「児童・生徒の学力向上を図るための調査」読み解く力に関する調査(東京都教育委員会)結果の分析〔悉皆〕

国語

結果の分析	授業改善の視点	具体的な授業改善案
必要な情報を正確に取り出す力が1.1ポイント上回っている。取り出した情報を読み取る力は5.6ポイント下回っている。解決する力は北区平均は上回ったが、都全体と比べると2.3ポイント下回っている。	取り出した情報を読み取る方法を中心に指導していく必要がある。そのために、授業の中で、時間の経過や主人公の行動の変化に着目しながら読み取るといった授業の形態で指導をしていく。子ども自身で読解問題を解くときにそのような視点で解くよう声をかけていく。	文の主語と述語に着目して、いくつかの文を比べ「誰が、どうした」という文の基本的なつくりについての変化を捉えさせていく。また、順接・逆接の関係、人物の相関関係、主人公の心情の関係を捉えるように指導をしていく。

社会

結果の分析	授業改善の視点	具体的な授業改善案
必要な情報を正確に取り出す力が7.9ポイントと下回っている。取り出した情報を読み取る力は0.1ポイント、解決する力は4.4ポイント下回っている。各観点がいずれも平均を下回っているが、特に、情報を取り出す力が大きく下回っている。	情報を正確に取り出す方法を具体的に指導することが必要である。そのために、授業の中で、積極的にグラフの読み取りを扱う必要がある。その際、一人一人が正確に読み取れているかを確認するようにする。また調べたことをグラフで表現させるようにする。	グラフを読み取る際のポイント、グラフのタイトル、出典、縦軸、横軸が何を表しているか、傾きの特徴などを、読み取ることを具体的に教えていく。また、グラフの読み取りで学んだことを生かしてグラフを作成し、それを自分で説明することで理解が深まると考える。

算数

結果の分析	授業改善の視点	具体的な授業改善案
必要な情報を取り出す力が1.7ポイント、比較・関連づけて読み取る力が2.5ポイント・6.9ポイント区平均を下回っている。一方、意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力は、区平均を1.3ポイント上回った。が、平均では、区平均を2.4ポイント下回っている。	必要な情報を取り出す方法がわかるように、問題文や図のどこにめをつけていけばよいかを考えさせ、必要な情報が正しく取り出せたかを確認してから、その情報を比較・関連付けて読み取る方法をじっくり考えさせていく。既習の事項を整理させたり、表や言葉にまとめさせる作業を授業に取り入れる。	問題を読んだら、既習事項をあげさせて、その中から使えるような情報を選ばせる。全体で確認してから、自分で図をかかせて、必要な情報を書き込ませたり、規則性のあるものは表をかかせたりして、関係を見つける作業に時間をかけるようにする。すぐに答えを教えるのではなく、じっくり考えさせるようにする。

理科

結果の分析	授業改善の視点	具体的な授業改善案
必要な情報を取り出す力が3.8ポイント、取り出した情報を読み取る力が1.4ポイント。解決する力が4.3ポイント下回った。各観点とも平均を下回っている。情報を取り出し、分析し、結果を導き出す力が不足していると言える。	授業の中で情報を解析する経験をより一層積む必要がある。経験不足も結果に出ている。そのため、指導計画の中にどこでどのように資料を取り入れていくかを織り込んでおく。資料の読み取りが個々にできるよう時間を取り解析する。	授業の中で情報を解析する経験を、より一層積ませていく。課題を明確にし、課題に沿ってそれを個々の児童が追求していく授業プランを作っていく。グループでの話し合い等、授業形態を工夫していく。

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（国語）

北区立王子小学校

補充・発展指導計画

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
2年	話す・聞く力・助詞の表記、文章を書く力はついていることが分かった。ただし、漢字を書く力や物語文や説明文を読み取る力は不十分なことが分かった。文章に即して丁寧に読み取らせる指導が必要である。	<ul style="list-style-type: none"> 場面の様子や人物の行動を中心に想像を広げながら物語文を読むことに力を入れる。 時間や事柄の順序に気をつけて説明文を読むことに力を入れる。 ICT教材を使い、漢字学習に興味をもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通じて読み聞かせをし、読書を奨励していく。 毎週の漢字ミニテストのフィードバックをこまめにし、適宜補充練習させる。
3年	前年度を全体的に下回っており、特に配当漢字を書くこと、決められた字数の範囲の中で、相手や目的を考えながら文を書くことの力が不足していることがわかった。大事なことを落とさないように聞き取ることや漢字を意味によって分類して理解する力は、身につけていることがわかった。	<ul style="list-style-type: none"> 新出漢字を学ぶ時、単に漢字練習で終わらせるのではなく、漢字の部首や使い方、その漢字の入った熟語調べ等を行い漢字に親しみを持たせる。 年間を通じて、様々な場面で文章を書く機会を設け、書いた文章を実際に相手に渡す活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら、自分の考えをまとめて表現できるような活動を取り入れる。 詩の暗唱や文章の音読活動を継続して行う。 国語辞典を引き、慣用句等を探す活動を行う。
4年	漢字を読むことも、書くことも、不十分なことがわかった。説明文の読み取りや、作文の力も、不十分だった。漢字も読み取りも、よくできている子と全く書けない子がいて開きが大きい。全体指導の中で、気をつけて指導していく必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> 短時間で、自分の思ったことを表現できるように、様々な場面で文章を書く機会を多く設け、苦手意識をなくす。 漢字テストでは、学級全体にどの子も書けるようにする。 前後の内容やつなぎ言葉に注意しながら、説明文の段落を要約させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 作文だけではなく、日記や感想文など、文章を書く活動の充実 スピーチや話し合い活動の充実 漢字練習の繰り返しの指導
5年	聞くこと、話し合うことへの課題があることが分かった。特に、話し合う活動では、基本的な話型などからしっかりと指導し、充実させる必要がある。また、言葉の学習についても一つ一つ丁寧に指導する必要がある。漢字の読み方についての指導が不十分であった。	<ul style="list-style-type: none"> 話し合い活動を多く設定し、話す機会や聞く場面を取り入れる。 また、自分の意見と比較して聞けるよう、自分の意見もちながら、授業に臨むようにさせる。 短時間で、自分の思ったことや考えを表現できるように、様々な場面で文章を書く機会を設け、苦手意識をなくす。 	<ul style="list-style-type: none"> 国語の授業だけではなく、朝のスピーチや学級会活動、他教科の時間なども含めて、話す機会や聞く機会を多く取り入れる。 読書活動を充実させ、文章の書き方や言語事項の理解を深めるとともに、自分の世界を広げるようにする。
6年	物語文や説明文を読み取ることに課題があることが分かった。また、漢字を読むことに関しても区の平均を少々下回ったが、全体的に「読み取ること」をのぞいて、力がついていることがわかった。	<ul style="list-style-type: none"> 国語のテストを復習する時、何についてたずねられているのかを確認し、押さえていく。 教科書で少しずつ読み進めていくものでなく、限られた時間の中で初めて読む文章を読み解き、質問に対する答えがどこの部分にあたるかを探す方法を指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 長めの説明文に慣れ親しむように、こちらから本を紹介する。 テスト以外でも、朝学習の時間等でワークなどを用いて長文読解に触れさせていく。

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（社会）

北区立王子小学校

補充・発展指導計画

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
3年	地図の見方や読み取り方、方位について十分に理解できていない児童がいる。次学年に進級する前に、確実に身に付けておく必要がある。実際に校外学習の際に、地図を見たり方位を意識したりするような指導の工夫が必要であると考え。	・今後行っていく地域での学習活動の際には、地図でその所在地や目的地を確認させ、地図に触れる機会を多くする。また、屋上に上がって方位を確かめるなど、各単元で可能な限り、実際に方位を目で見て、方位を扱うことに計画的に慣れさせていく。	・見学したり、調べたりして学んだことを児童が相互に発表し合うなど、言語活動の中で、学習内容に対して自分なりの感想がもてるように、各単元の学習を工夫していく。見学などの際には、何を見るのか、その視点を明確にして、児童が進んで活動に取り組めるように促していく。
4年	基礎・活用とも区平均を上回っており、力がついてきているといえる。社会的事象への興味や関心はあるが、それらを考察したり他の事実と比較したり自分との生活との関連を考えたりしながら自分なりの学習問題を設定する力や調べ意味をとらえる力やまとめて表現する力が足りなかった。	・社会的事象に対する見方・考え方の視点、学習の手順や技能を学び取らせる。 ・一方的な教え込みにならないように出来るだけ問題解決型の学習過程「つかむ」「追求する」「まとめる」の三段階で行えるようにする。	・児童の自然体験や社会体験、生活体験などの不足から社会事象に直接かかわる機会が少なくなってきた。断片的な知識だけが豊富にならないように児童一人一人に具体的で実感をともなう活動や体験を取り入れ児童が能動的に学習に取り組めるようにする。
5年	基礎・活用ともに区平均を上回っており、正答率は8割を超えている。全体的に見ると、基礎的な力は身に付いてきている。しかし、活用については期待値を下回っており、資料活用の技能・表現については課題が見られる。	・グラフや資料の見方・読み取り方など、基礎的な技能を丁寧に確認し、授業でも積極的に取り入れていく。 ・調べ学習、課題別学習を取り入れ、新聞やインターネットなどを活用し、意欲的に取り組めるように工夫していく。	・調べ学習の後に、調べたことを話し合ったり、発表したりする時間を確保する。その活動を通して、友達の考えや表現の仕方などを学び合えると考え。 ・単元を通して学んだことを生かし、自ら課題を設定し、まとめを深められるようにする。
6年	社会的な事象に関心をもてるような指導および、資料を正確に読み取れるような指導が必要である。そのために授業の中で、資料読み取りの時間を確保し、資料読み取りのポイントを教える。その際、正しく読み取れているかを一人一人確認する必要がある。	・児童の関心を引きつけられるような課題を用意する。 ・調べ学習を扱い、児童が意欲をもてるようにする。 ・資料読み取りのポイントを具体的に教えたり、それを掲示したりして、すぐに振り返ることができるようにする。 ・読み取った資料を隣同士などで説明する時間を設ける。	・歴史学習では、当時の社会状況を想起できるように多様な資料、例えば、肖像画、想像図、歴史マンガなどを用いて、イメージ豊かにとらえさせるようにする。 ・自分で年表づくりをしたり、人物関係図をつくったりしながら、児童の興味を高められるようにする。

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（算 数）

北区立王子小学校

補充・発展指導計画

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
2年	・具体物・半具体物の教材を用意し、担任と複数のパワーアップ講師とできめ細かい指導を行い、家庭学習で定着を図ってきた結果、基礎・活用ともに区の平均を上回った。量と測定については、測定結果をどう見るかの押さえが足りなかったと思われる。	・担任とパワーアップ講師で協力し、引き続き、個に応じた指導を行うとともに、児童が自ら考えたり、積極的に質問したりすることも奨励する。 ・具体物や半具体物を操作させ、その結果を考察することに力を入れる。	・引き続き、補充の必要な児童には、休み時間を利用し、個別指導し、その日のうちに理解させるよう努める。 ・課題が早めに終わった児童には、より発展的な課題を与え取り組ませる。
3年	1学級の人数が多いため、測定のための教材が不足していたり、個への対応が不十分だったりしていた面があったと思われる。3学年より始まった少人数指導の利点を最大限に生かし、教材の準備や工夫を行い、個に応じた指導を進めていく。	・具体物・半具体物の教材を用意し、視覚に訴える教材を工夫する。 ・授業の進め方や家庭学習の進め方などを学年で話し合い教材研究を十分に行って授業にあたる。 ・フラッシュカードを用いて基礎知識の反復練習を行う。	・課題が早めに終わった児童には、より発展的な課題を与えて、取り組ませる。 ・補充が必要な児童には、授業時間内や休み時間を利用して、基本的な内容を中心に課題を与え、個別指導をしていく。
4年	基礎・活用とも、区平均を上回っており、力が身につけているといえる。領域別では数量関係の達成率が低かった。ぼうグラフと表など情報の処理のし方の押さえが甘かったと思われる。また、分数・小数では、視覚的に理解できる教材の工夫が足りなかったと考えられる。	・引き続き習熟度別の少人数指導を行い、個に応じた課題を適切な形で与えていく。 ・分数や小数など、数量関係の分野については、数直線や半具体物を活用し、視覚的に量をとらえることができるような教材を提示する。	・課題が早めに終わった児童には、より発展的な課題を用意して、意欲を引き出していく。 ・補充の必要な児童については、少人数指導により、一人一人のつまずきのポイントをつかみ、反復練習や個別指導を行っていく。
5年	わり算や小数の計算が特に達成率が低かったので、基礎的な計算力をつける必要がある。また基本的な知識・理解の定着が不足していると考えられるので、授業時間中の時間配分を検討し、授業の内容を確実に定着させる時間を設定する。	・既習事項の確認のため、フラッシュカードを使い、基本的な知識を復習する時間を設定する。 ・問題解決学習を継続しながらも、習熟する時間を設け、授業内容の定着を図る。 ・ノートの確認で児童のつまずきを発見し、早めに対応する。	・課題が早めに終わった児童には、より発展的な課題を与えて、取り組ませる。 ・補充が必要な児童には、基本的な事項を確実に定着させるためのプリントを用意し、反復練習をさせる。 ・児童のつまずくポイントまで戻って既習事項を確認する。
6年	基礎・活用とも、ほぼ区平均と同程度の達成率といえる。単元別では、体積や立体の単元の正答率が低かったのは教材の工夫が足りなかったと思われる。観点別では、知識・理解が区平均を下回っている。学習内容の確実な定着を図るための習熟の時間を増やしていく必要がある。	・既習事項の確認のため、フラッシュカードを使い、基本的な知識を復習する時間を設定する。 ・基礎的な知識を定着させるための習熟教材を用意し、くり返し練習する時間を設定する。 ・数量や空間の位置関係の認識が不十分な児童には、具体的な教材教具を用意する。	・課題を終わらせた児童がには、より発展的な問題を用意して取り組めるようにする。 ・補充のための課題が必要な児童には、個に合った課題を用意して反復練習をさせ、基礎・基本の定着を図る。また、休み時間や放課後などの時間を活用して補充の時間を設定する。

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（理 科）

北区立王子小学校

補充・発展指導計画

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
3年	自然事象(アゲハチョウ、ホウセンカの成長)の関心を高めるために、各教室にアゲハの卵を入れた水槽を置き、児童が継続して観察できるようにしたが、1つ1つの現象には、興味を示すが、それらを自分たちで世話をする態度を身に付けさせる必要がある。	観察は、好んで行うが、それらを見て絵や言語で表現する力は、不足しているため、継続して観察できるカードを用意し表現力を身に付けさせる。生き物を飼育し観察するには、継続して、世話をを行うことの重要性を教え、担当者を決めて、世話を行わせる。	「太陽を調べよう」では、道具の扱い方や記録の仕方を丁寧な教え、今後の実験や観察を行う際に、応用できる力を身に付けさせたい。実物投影機やパソコンなどを活用し、現象等を視覚的に理解させる工夫を行う。
4年	全体にむらがない基礎力が身に付いている。大きな特徴はない。問題解決型の授業を積極的に取り入れているが、さらに個人別の課題学習を取り入れる。少人数指導を行い個人差に対処してきたが、学習形態やグルーピングを工夫し効果的に指導していく必要がある。	実験、観察に関する関心は高い。しかし、自ら考えたり考えたことを言語で表現したりする力は不足している。特に発表力が育っていない。問題解決型の授業をさらに推進し、予想、実験、結果、まとめの授業に流れを定着させる。個人差は、少人数指導を生かきめ細かく指導する。	毎時間の始めに振り返りの時間を取っている。引き続き基礎力の補充に役立てていく。実物投影機、パソコンなどを活用し視覚的に理解させる工夫を行う。実験はできるだけ個別化し、どの児童も実験に参加できるようにする。そのための教材を整える。発展教材を積極的に扱う。
5年	全体にむらのない基礎力が身に付いている。観察、実験の関心は高い。自ら考える力は不足しているため、予想したり分析したりする時間を十分に取る。また、グルーピングや少人数指導の学習形態を工夫し、効果的に指導ができるようにする必要がある。	実験、観察は好んで行う。しかし、実験結果を予想したり結果から考えたことを言語で表現したりする力は不足している。ワークシートを工夫したり、考える時間を十分確保するなど時間と場を授業の中で確保する。少人数指導の特色を生かし課題別学習を取り入れる。	毎時間の始めに振り返りの時間を取っている。引き続き基礎力の補充に役立てていく。観察単元では、顕微鏡を児童数用意し、観察課題を個別化する。身近な現象や事物を実験や観察に生かす教材の工夫を行う。他教科との関連を意識し、総合的な授業を発展的に行う。
6年	全体にむらがない基礎力が身に付いている。自然事象への関心は高く、楽しんで実験をしている。言語での表現力に欠けるので、グルーピングや学習形態を工夫していく。また少人数指導の特徴を生かし、課題別や能力別など単元に合わせた形態で行っていく。	実験、観察は好んで行う。科学的な思考力をのばすため、問題解決学習をさらに取り入れていく。少人数指導の利点を生かし、課題別学習を行う。実験をできるだけ個別化し、課題をしっかりとつかませる。ワークシートを工夫し自分の考える時間を作る。T1、T2の役割を明確にする。	毎時間の始めに振り返りの時間を取っている。引き続き基礎力の補充に役立てる。環境教材では、調べ学習で終わるのではなく、実験で検証させ、自分の意見を持つことができるよう指導する。身近な生活や他教科との関連を意識した総合的な授業を発展的に扱う。